

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査 栗東市の結果について(概要)

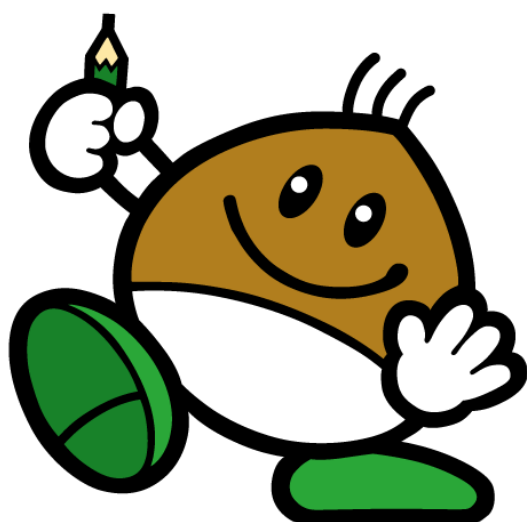
全国学力・学習状況調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握し、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況等の改善に役立てる目的で、全国全ての小中学校を対象に実施されています。

令和7年度の調査結果と、今後の改善に向けたポイントについてまとめましたのでお知らせします。

全国学力・学習状況調査は、学力の一つの指標であり、決して競争をあおるためのものではありません。子どもたちについている力や課題を明らかにし、日々の教育活動に生かすことをねらいとしています。

また、ここに示す資料は、栗東市全体の概要であり、個々の児童生徒一人ひとりの状況とは一致しない面もあります。保護者の皆様は、お子様の学習状況を考える上での参考資料としてください。

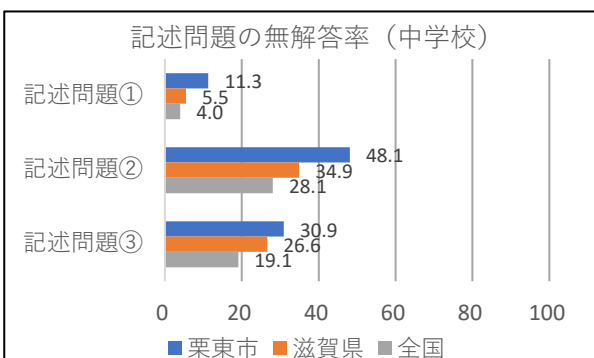
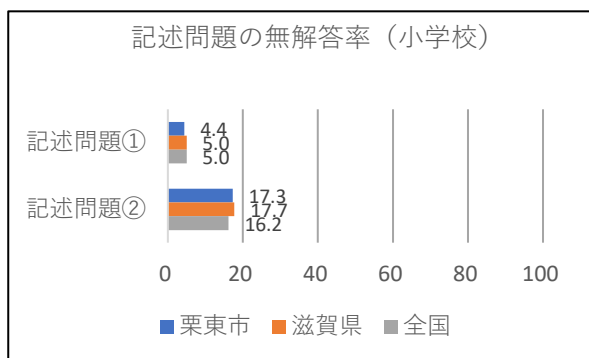
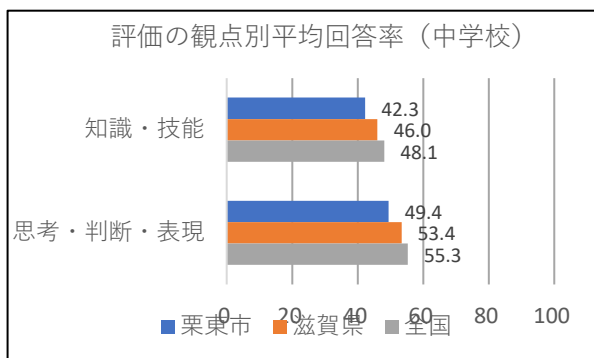
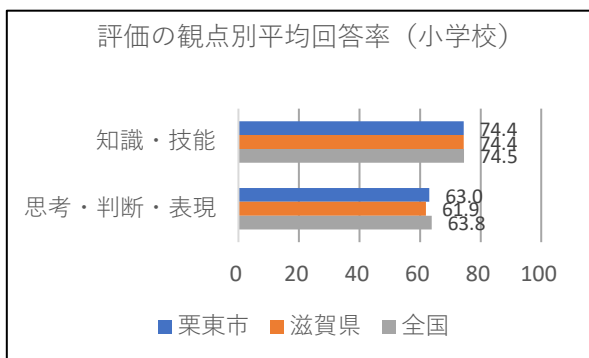
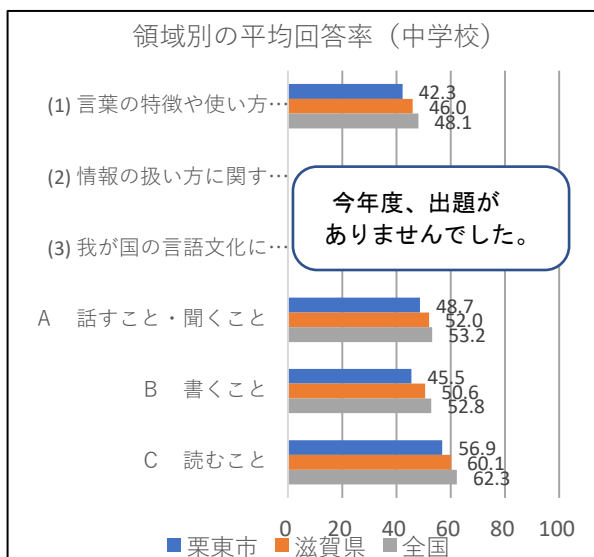
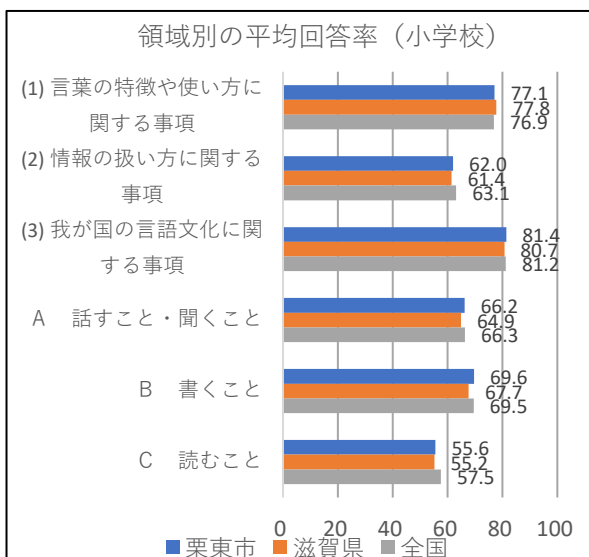
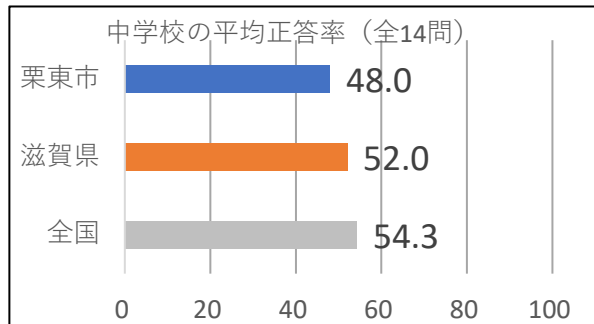
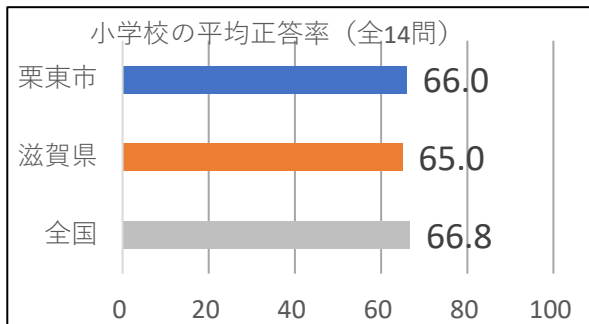
栗東市の子どもたちが、温かな環境のもとで安心して学習ができますよう、これからもご支援のほどよろしくお願いいたします。

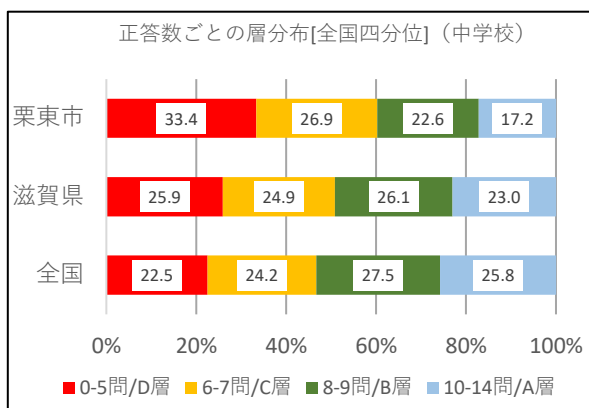
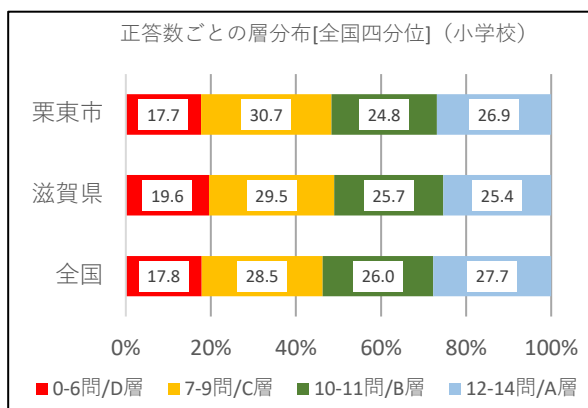


栗東市教育委員会事務局

# 教科に関する調査の栗東市の子どもたちの全体的な傾向

## 1. 国語



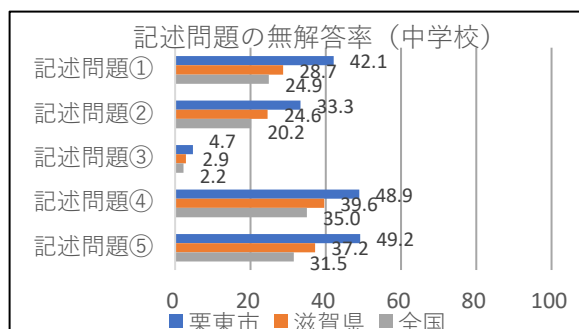
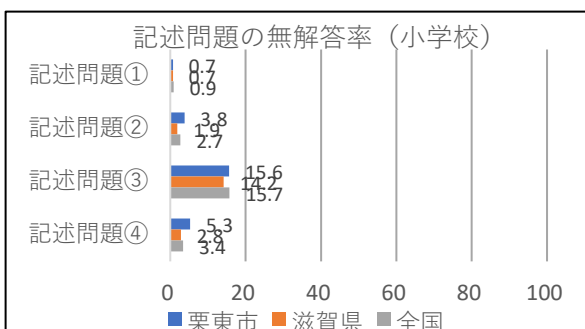
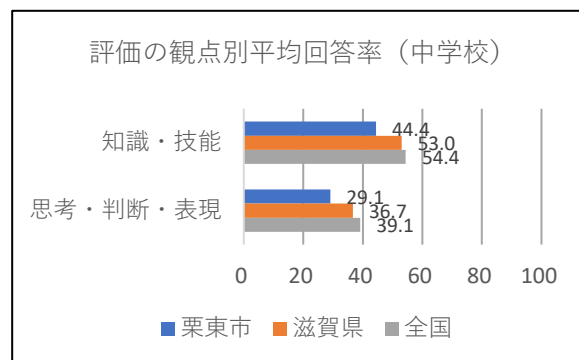
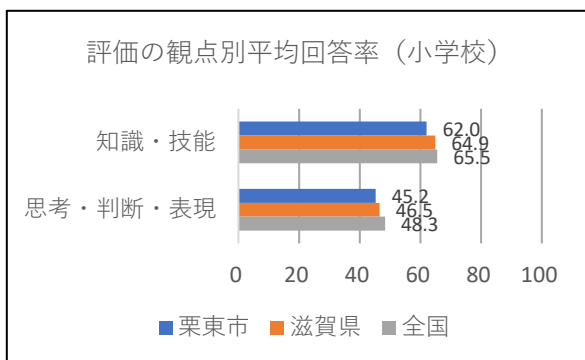
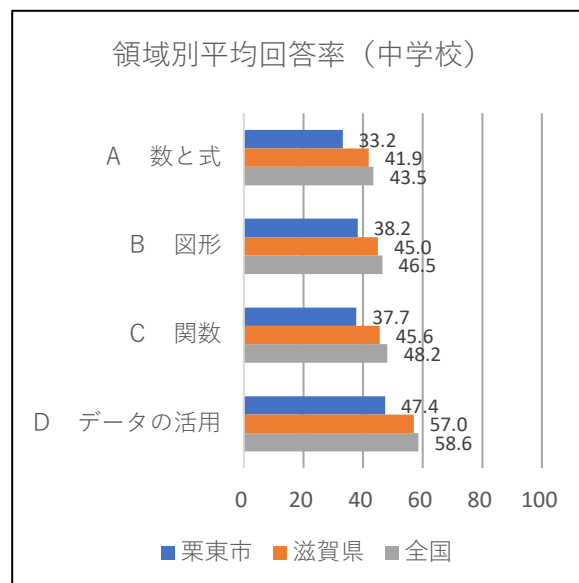
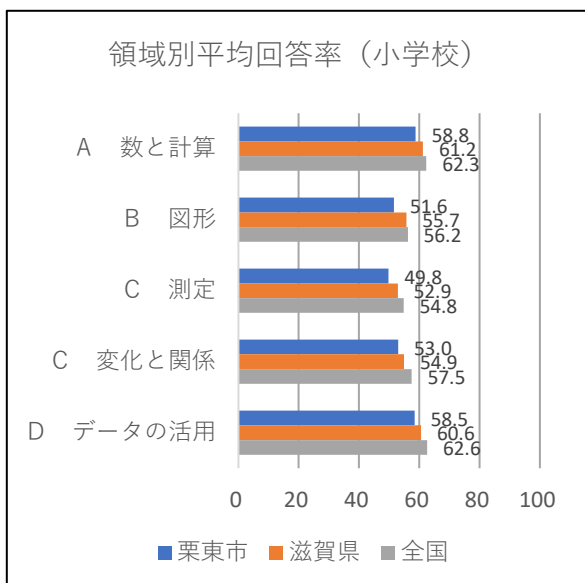
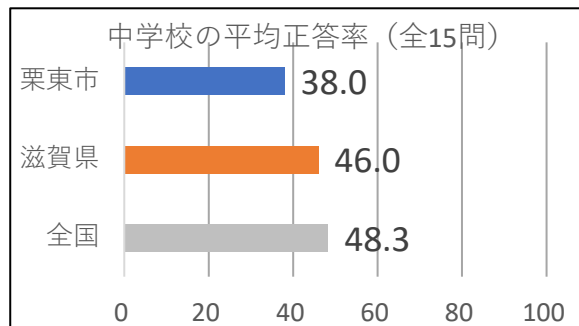
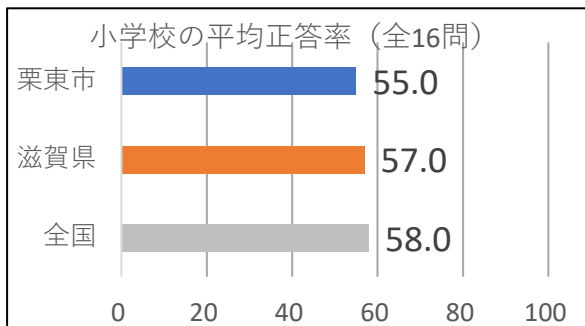


正答数ごとの層分布【全国四分位】とは、全国の児童生徒を正答数の順に並び替えて、4等分してグループに分けたものです。下から第1四分位（D層）、第2四分位（C層）、第3四分位（B層）、第4四分位（A層）と呼びます。

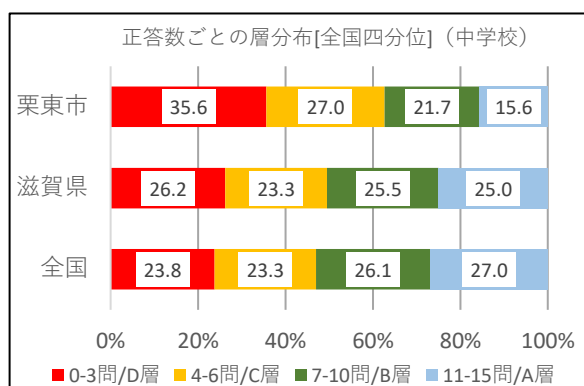
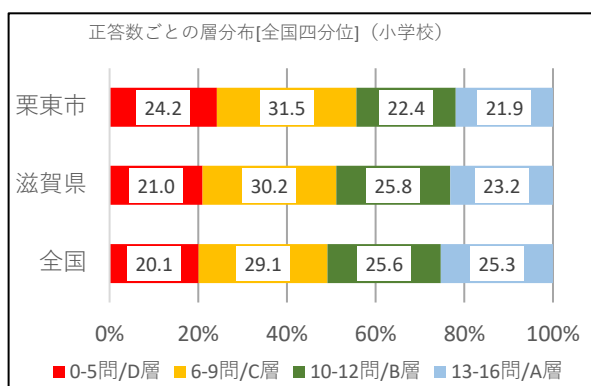
## 【国語の結果概要】

	小学校	中学校
平均正答率	全国平均を0.8ポイント下回っていましたが、滋賀県平均を1.0ポイント上回っていました。	全国平均を6.3ポイント、滋賀県平均を4.0ポイント下回っていました。
領域別の平均回答率	6項目の内、3項目が全国平均を上回っており、5項目が滋賀県平均を上回っていました。	4項目全てにおいて、全国平均、滋賀県平均を下回っていました。
評価の観点別平均回答率	「知識・技能」は、全国平均、滋賀県平均とほとんど同数値でした。漢字問題2問中1問は、全国平均を上回っていました。「思考力・判断力・表現力」は、若干全国平均を下回っていましたが滋賀県平均を上回っていました。	「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」とも、全国平均、滋賀県平均を下回っていました。
記述問題の無解答率	2問中1問が全国平均、滋賀県平均よりも0.6ポイント低い割合でした。	3問全てで、全国平均、滋賀県平均よりも高い割合となっていました。
正答数ごとの層分布 [全国四分位]	それぞれの層の児童の割合が全国とほぼ同じでした。	D層の生徒の割合が全国よりも高く、A層の生徒の割合が全国より低くなっていました。
国語科の学力向上の手立て	全国四分位の層分布から、児童には全国並みに学力が身についているといえます。 言語活動の充実を図り、多様な考えや表現方法に触れる経験を積み重ねていくことが大切です。	D層の生徒に焦点をあて、基礎学力向上のため、個々へのきめ細やかな学習支援が必要です。 また、日々の学習習慣が定着するよう、家庭・学校が連携した取組が求められます。

## 2. 算数・数学



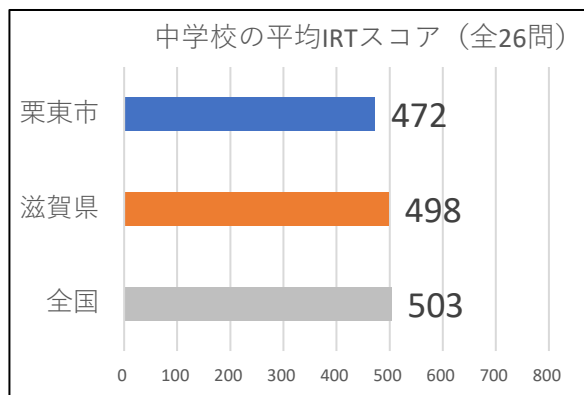
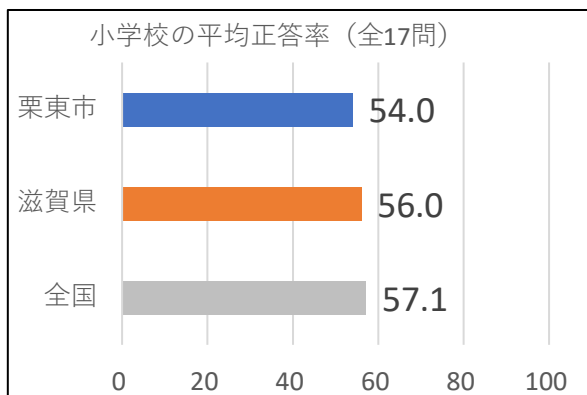




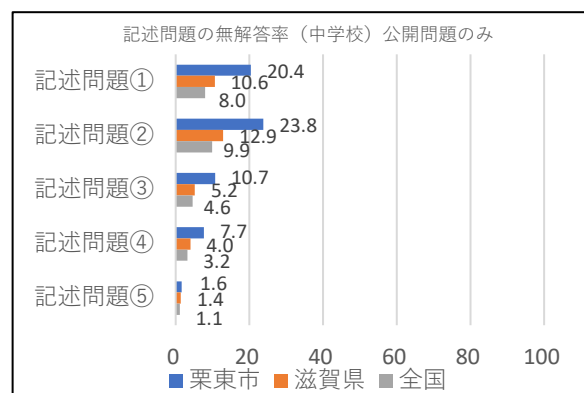
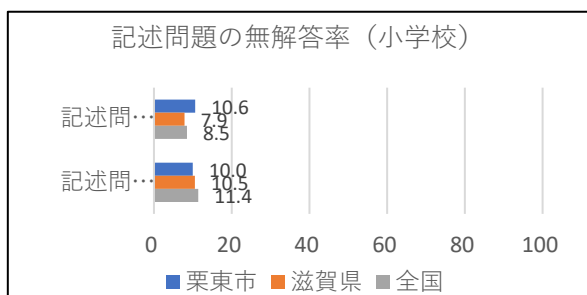
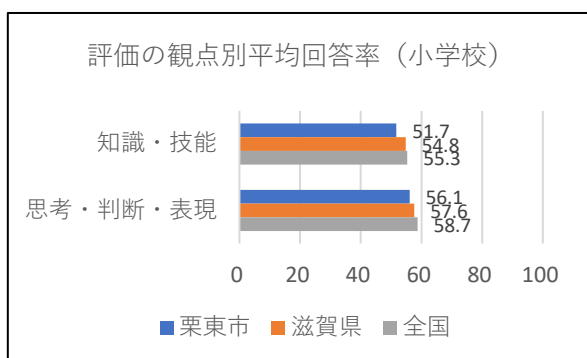
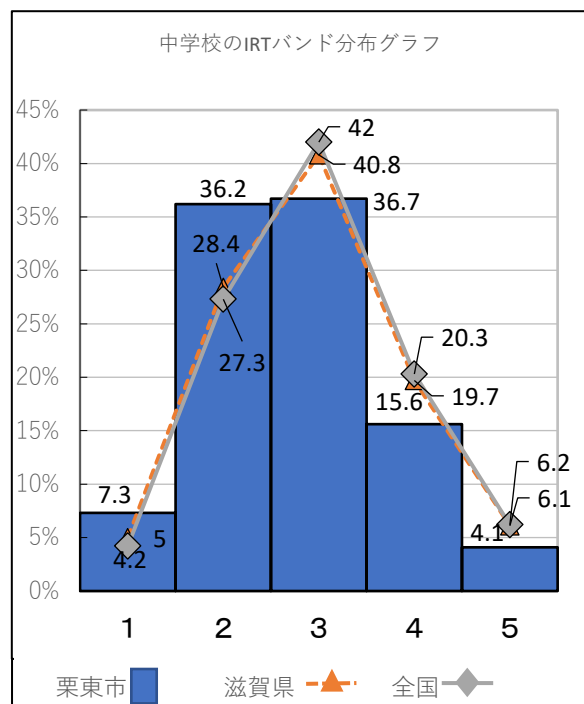
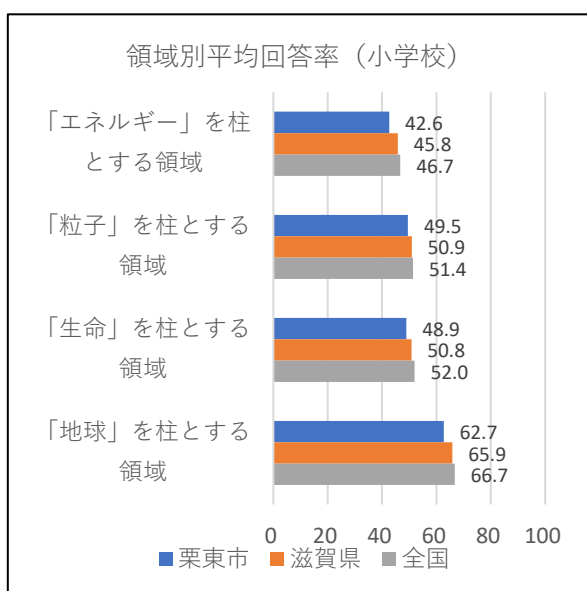
## 【算数・数学の結果概要】

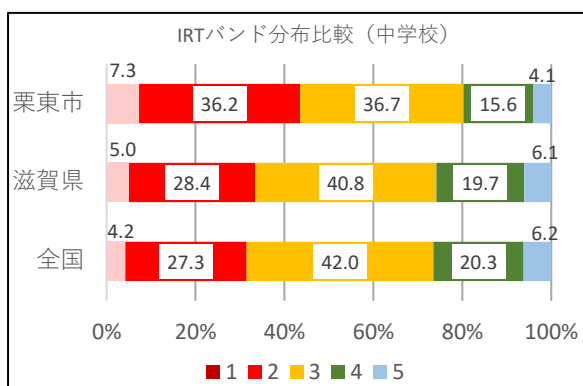
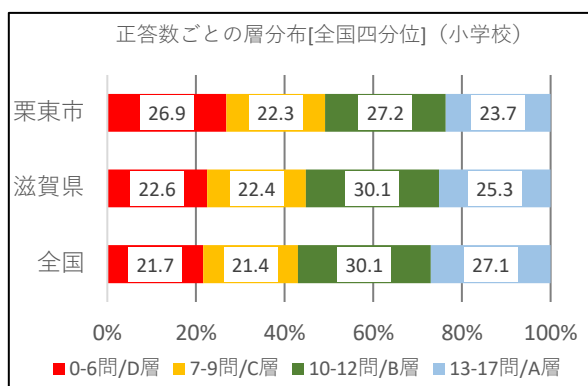
	小学校	中学校
平均正答率	全国平均を3.0ポイント、滋賀県平均を2.0ポイント下回っていました。	全国平均を10.3ポイント、滋賀県平均を8.0ポイント下回っていました。
領域別の平均回答率	5項目全てで、全国平均、滋賀県平均を下回っていました。	4項目全てで、全国平均、滋賀県平均を下回っていました。
評価の観点別平均回答率	「知識・技能」は、全国平均、滋賀県平均を下回っていましたが、計算問題では、全国平均、滋賀県平均を上回っていました。 「思考力・判断力・表現力」も、全国平均、滋賀県平均を下回っていましたが、「10%増量した量が増量前の量の何倍かを選ぶ」問題では、滋賀県平均を上回っていました。	「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」とも、全国平均、滋賀県平均を下回っていました。
記述問題の無解答率	4問中1問が全国平均より0.2ポイント低い割合でした。残りの3問についても全国平均との差は小さかったです。	5問全てで、全国平均、滋賀県平均よりも高い割合となっていました。そのうち2問は半数近くが無解答でした。
正答数ごとの層分布 [全国四分位]	D層・C層の児童の割合が全国よりも若干高く、A層・B層の児童の割合が全国より若干低くなっていました。	D層・C層の生徒の割合が全国よりも高く、A層・B層の生徒の割合が全国より低くなっていました。
算数科・数学科の学力向上の手立て	D層・C層の児童に対して、基礎学力向上に取り組むとともに、算数的活動を通して、お互いの考え方のよさに気づかせ、より深い学びにつなげていくことが大切です。	D層・C層の生徒の割合が60%を超えていることから、数学的な用語の意味を理解できるようにするなど、基礎学力の定着を図る学習支援が必要です。 また、国語科同様に、学習習慣が定着するよう、家庭・学校が連携した取組が求められます。

### 3. 理科



中学校理科はCBTで実施。  
公開問題10問、非公開問題16問。



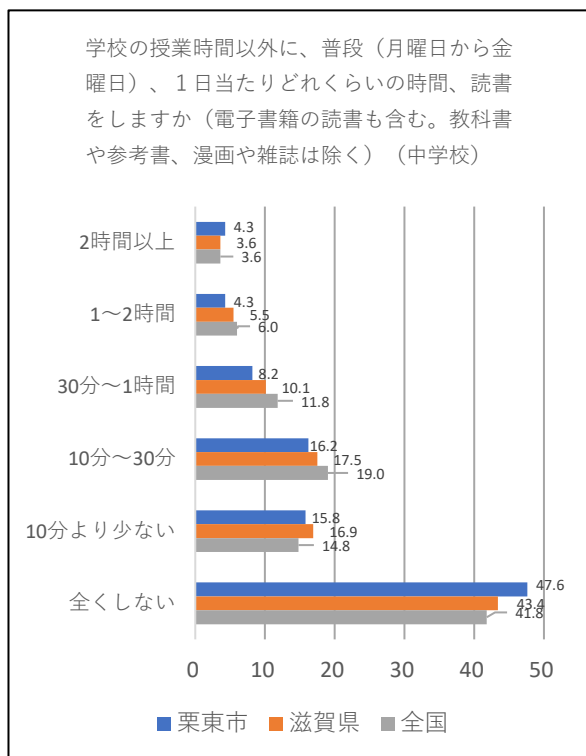
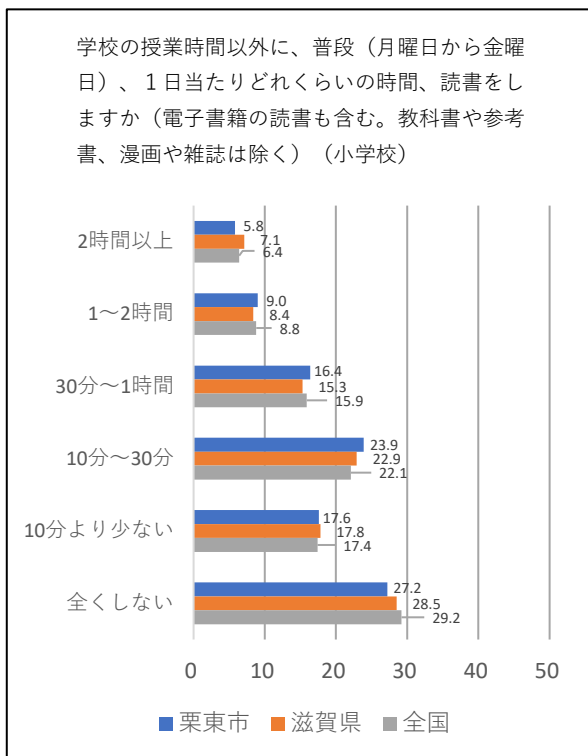


## 【理科の結果概要】

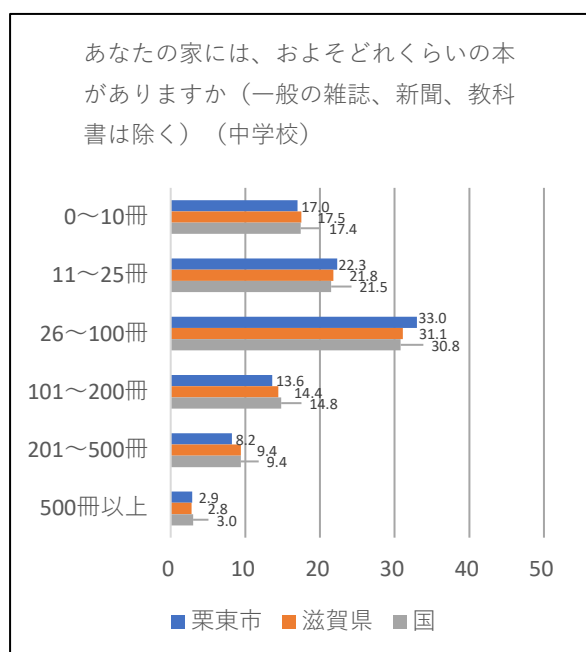
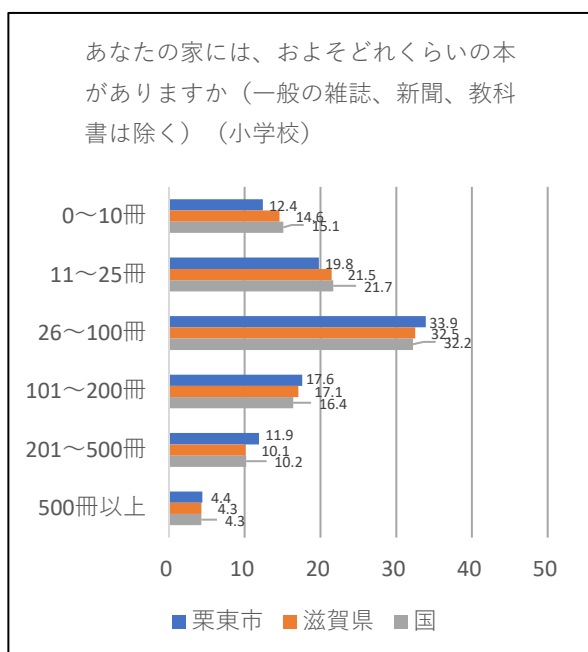
	小学校	中学校
平均正答率	全国平均を3.1ポイント、滋賀県平均を2.0ポイント下回っていました。	平均IRTスコアで全国平均を31ポイント、滋賀県平均を26ポイント下回っていました。
領域別の平均回答率	4項目全てが全国平均、滋賀県平均を下回っていました。	CBT方式で行い、全員が同じ問題でないため、領域別の平均回答率はありません。
評価の観点別平均回答率	「知識・技能」は、全国平均、滋賀県平均を下回っていましたが、顕微鏡の操作に関する問題では、全国平均、滋賀県平均を上回っていました。 「思考力・判断力・表現力」も、全国平均、滋賀県平均を下回っていましたが、「水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ」問題では、全国平均、滋賀県平均を上回っていました。	「知識・技能」にかかる問題では、全国平均、滋賀県平均を上回っている問題が2問ありました。 「思考力・判断力・表現力」にかかる問題では、すべての問題で全国平均、滋賀県平均を下回っていました。
記述問題の無解答率	2問中1問が全国平均より1.4ポイント、滋賀県平均より0.5ポイント低い割合でした。	公開問題の5問全てで、全国平均、滋賀県平均よりも高い割合でした。
【小学校】 正答数ごとの層分布 [全国四分位]  【中学校】 IRTバンド分布比較	D層・C層の児童の割合が全国よりも若干高く、A層・B層の児童の割合が全国よりも若干低くなっていました。	1・2バンドの生徒の割合が全国よりも高く、3・4・5バンドの生徒の割合が全国よりも若干低くなっていました。
理科の 学力向上の 手立て	前回の令和4年度調査と比較すると、全国、滋賀県との差が縮まっていました。 D層・C層の児童が、身の回りの事象を科学的に自分の言葉で表現したり、話し合ったりしていけるよう支援していくことが大切です。	特に1・2バンドの生徒が、実験の結果や科学的な根拠を読み取れるよう、基礎学力の定着に向けた支援が必要です。 また、成功体験を積み上げるために、スモールステップの学習も大切です。

# 児童生徒質問調査から見てくる栗東市の子どものがた

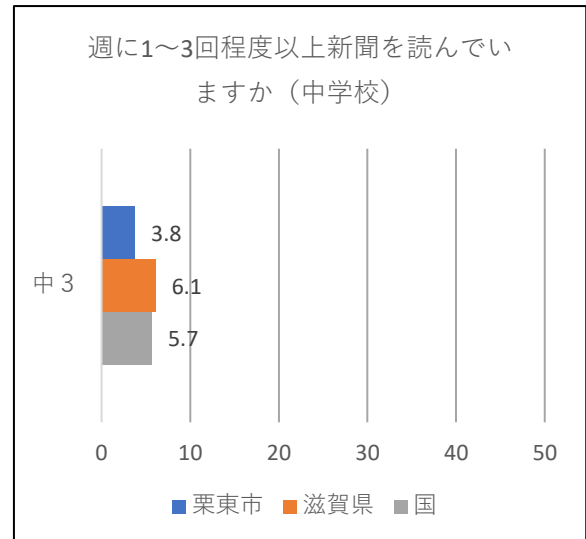
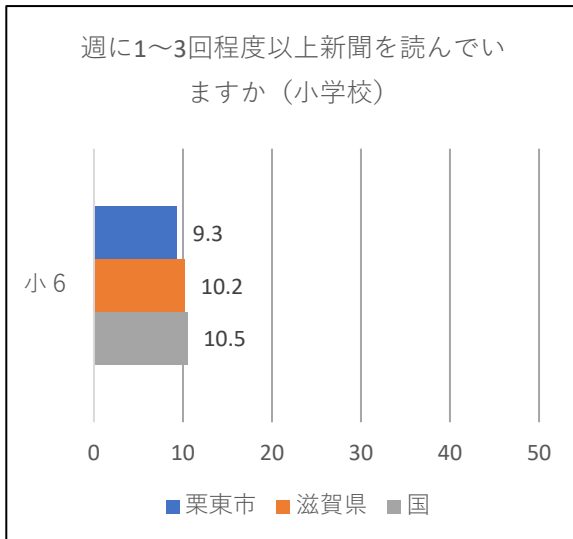
## 1. 読書や活字に触れる環境に関する質問について



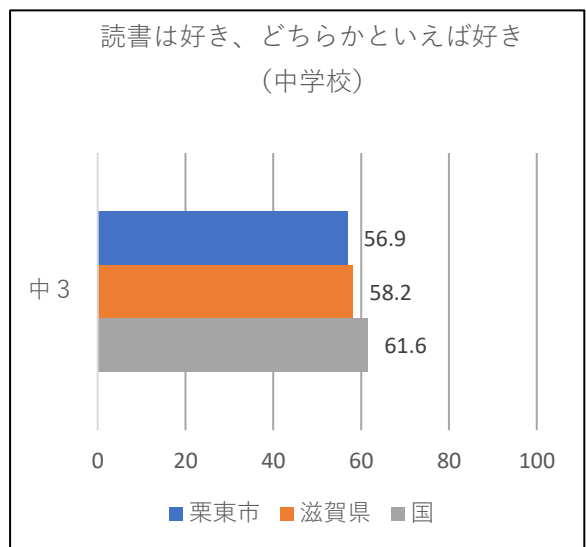
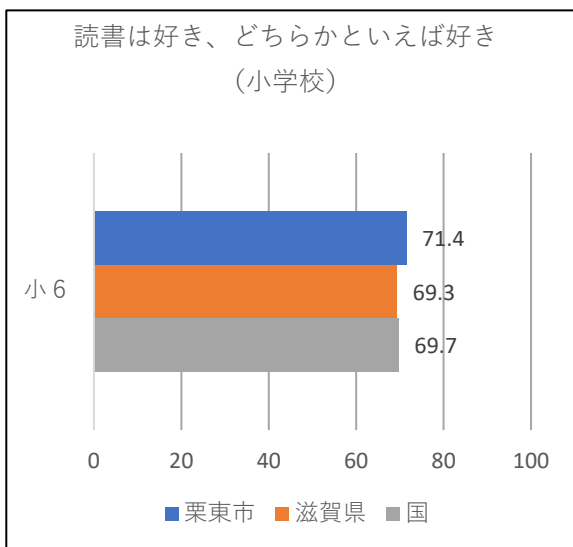
普段、30分以上読書をしている本市の小学6年生は全体の31.2%、中学3年生は全体の16.8%です。中学生になると、部活動や学習で読書の時間が減っていると推測されます。



小学6年生、中学3年生ともに、家にある本の冊数の中央値は26～100冊となっています。家庭で活字に触れられないのであれば、学校で活字に触れられる環境を整備していく必要があります。



新聞を読む習慣のある子どもが全国的に減りつつあります。本市では、特に中学3年生は、新聞を読む習慣がないことが読み取れます。



「読書が好き、どちらかといえば好き」と回答している小学6年生は全体の71.4%、中学3年生は全体の56.9%です。本市の小学6年生は、全国や滋賀県よりも読書が好きな児童の割合が高いことがわかります。読書好きな児童生徒を増やしていけるよう、学校で学校図書館の本に触れる機会を増やす工夫をすることが今後も大切です。

## 2. ICT機器の活用に関する質問について

質 問 項 目	小 6	中 3
	週3回以上と答えた児童生徒の割合	
小学5年生（中学1、2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	63.0 (昨年 40.7)	55.3 (昨年 51.0)

質 問 項 目	小 6	中 3
	とてもそう思う、そう思うと答えた児童生徒の割合	
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。	79.9	80.2
あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。	88.6	90.0
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。	65.3	55.4
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。	81.5	73.5

質 問 項 目	小 6	中 3
	とてもそう思う、そう思うと答えた児童生徒の割合	
あなたは、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことがあなたにどれくらい当てはまりますか。		
（１）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。	77.3	7項目のうち無作為に選ばれた2項目に回答のため、市の集計はありません。
（２）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。	85.1	
（３）楽しみながら学習を進めることができる。	79.7	
（４）画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。	87.1	
（５）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。	74.4	
（６）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。	78.9	
（７）友達と協力しながら学習を進めることができる。	85.1	

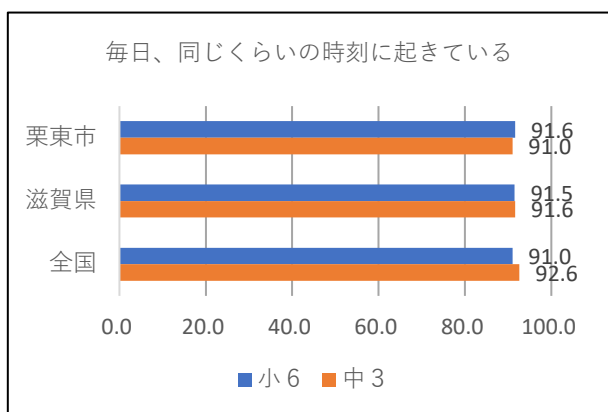
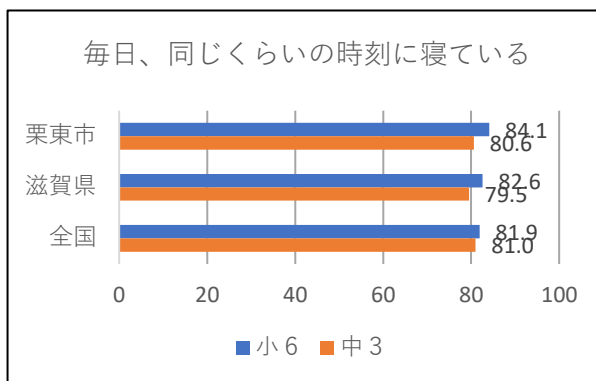
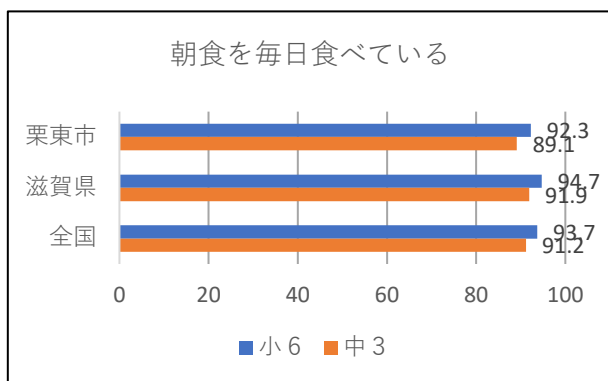
質 問 項 目	小 6	中 3
小学5年生までに（中学校1、2年生のときに）受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	65.2	48.5
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	78.1	59.5

ICT機器を活用した学習においては、小学6年生、中学3年生ともに肯定的な回答をしていました。個別学習やグループ学習など様々な形態の学習で活用されるとともに、調べ学習や発表（プレゼンテーション）などの学習でも活用されており、個別最適な学びや協働的な学習につながっています。ICT機器を活用した学習の回数については、昨年度よりも割合が高くなっていますが、全国や県の平均より少ないのが現状です。

総合的な学習の時間や他の教科において、発表の機会を増やし、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるためにはどうすればいいのかを考える経験を増やしていくことが大切です。今後は、学ぶ意欲がさらに高まるよう、発達段階に応じて授業の中でICT機器をさらに活用し、自分の考えや意見を伝える機会や発表の経験をする機会を仕組んでいくことが大切であると考えます。

### 3. 家庭での生活や学習のすがた

#### ◆基本的な生活習慣



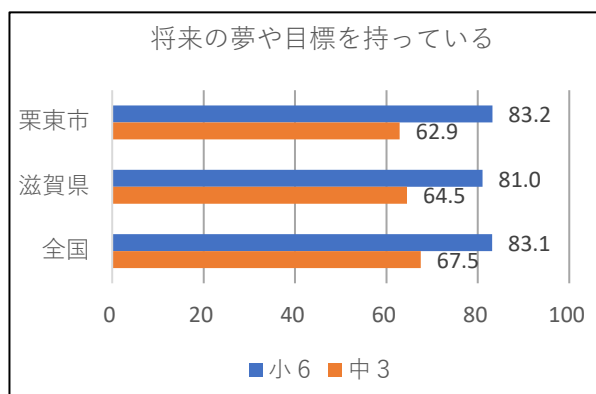
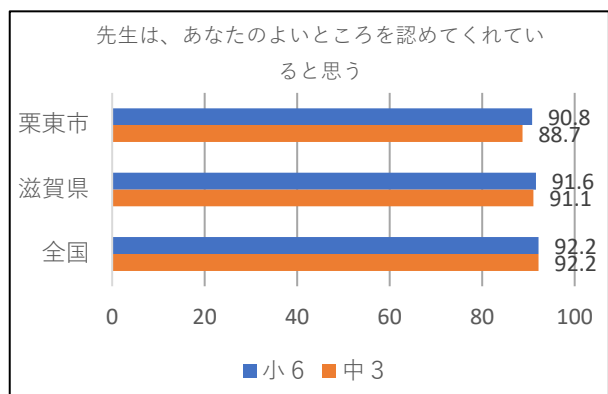
小中学生とも、朝食を食べることと、決まった時刻に起きることといった基本的な生活習慣が身についていると言えます。生活習慣の形成には家庭の役割が大きいので、家庭で声かけがしっかりされていることが推測されます。

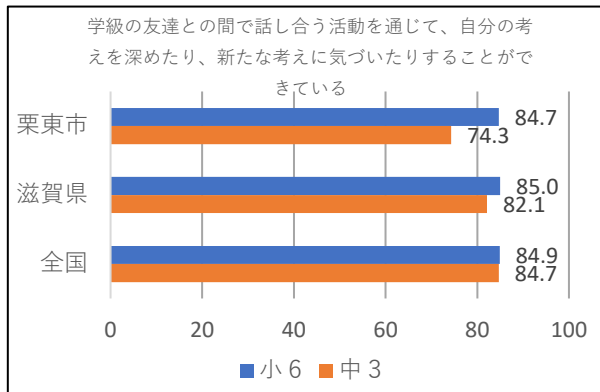
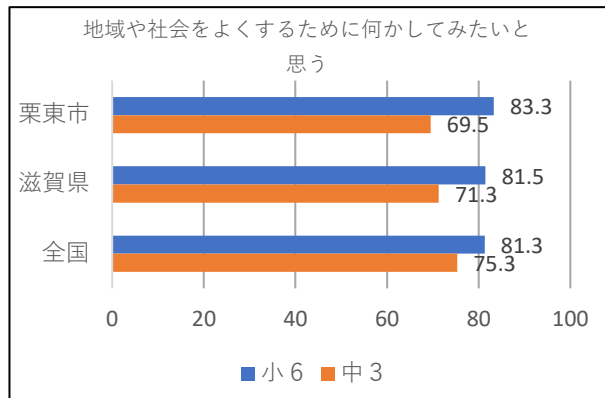
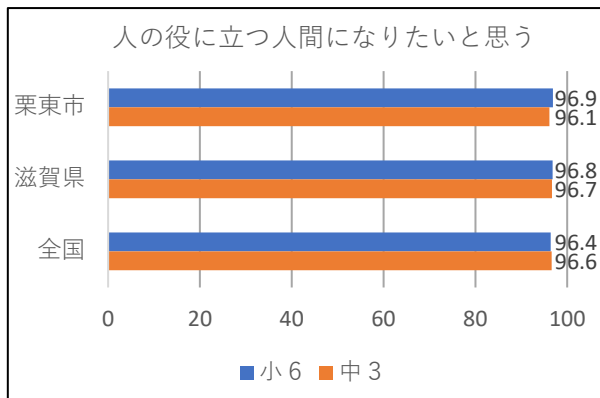
### 4. 非認知能力にかかわること

栗東市では「栗東子育て教育Nextプロジェクト」として、非認知能力を育むことに取り組み、令和4年度より児童生徒質問紙との関連に注目しています。栗東市の子どもたちにつけたい非認知能力は、「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」の3つです。

非認知能力は、本来テストなどで数値化できないものですが、今回の調査では、非認知能力と関連する質問があり、それらの結果から、小中学生がもつ非認知能力の一端をうかがい知ることができます。

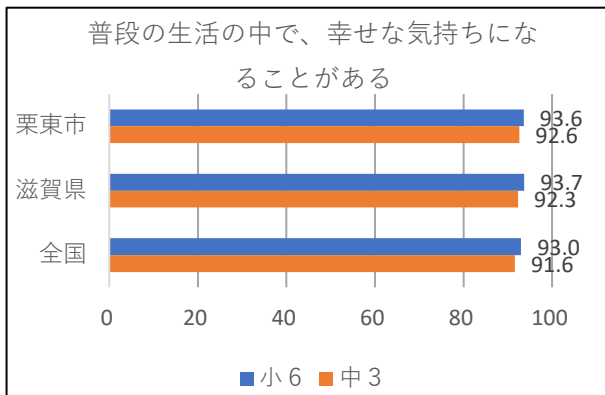
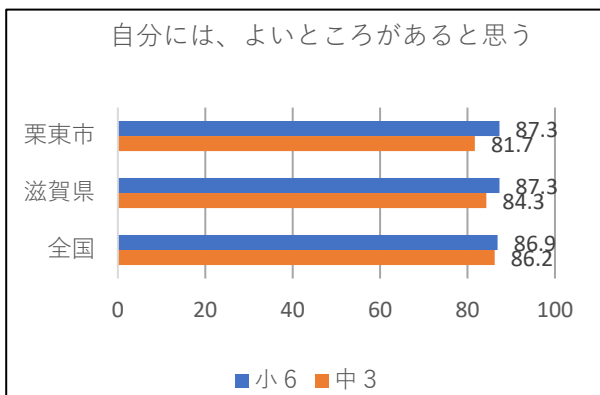
#### ◆自分を高める力…自分をさらに良い状態にするために必要な力





90%以上の小中学生が「人の役に立つ人間になりたい」と考えています。こうした思いを子どもたちが今後も持ち続けられるよう、学校、家庭、地域で素敵なおところを積極的に認めていき、子どもたちの自尊感情を育てていくことが大切です。

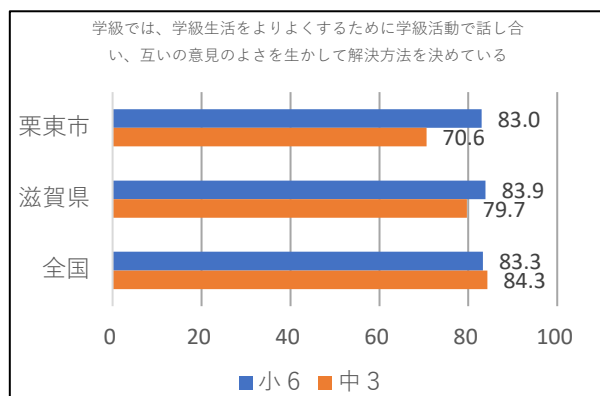
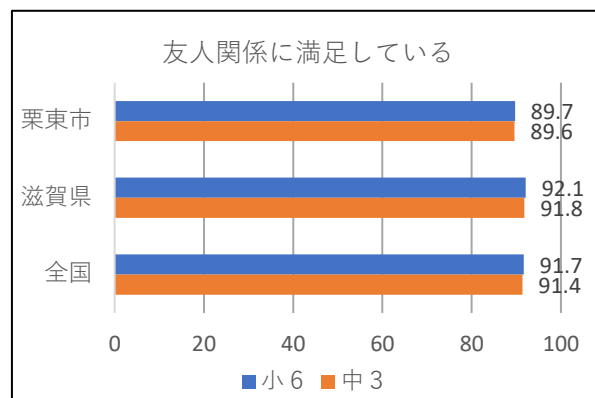
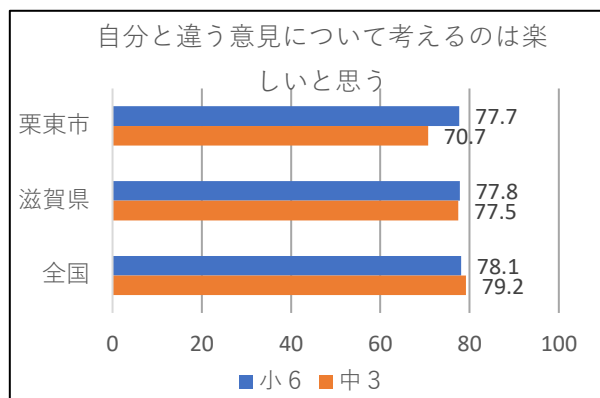
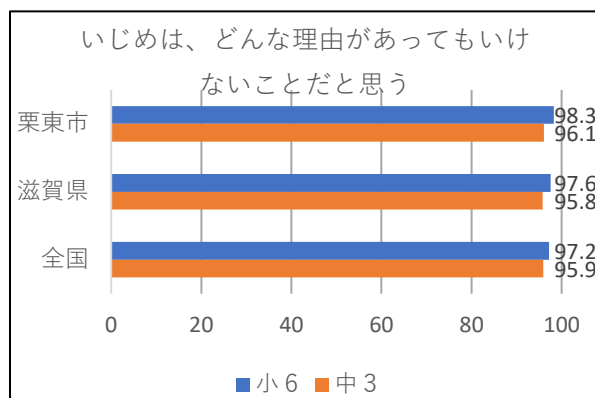
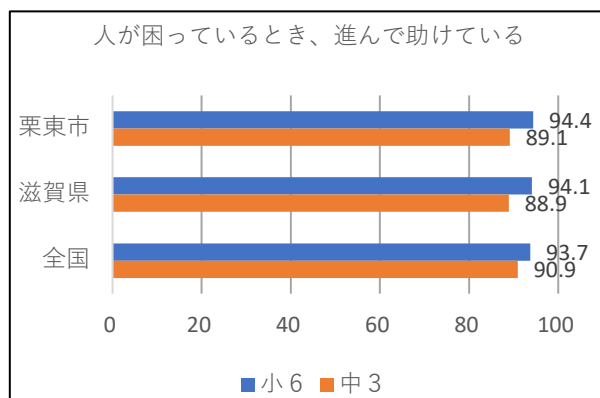
## ◆自分と向き合う力…自分の気持ちや状態を落ち着かせるために必要な力



80%以上の小中学生が「自分には、よいところがある」と思っています。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と90%以上の小中学生が回答しています。子どもたちの自己肯定感、幸福感を高い水準で維持できるよう、今後も我々大人が声をかけ続けていくことが大切です。



## ◆他者とつながる力…他者と協働するために必要な力



95%以上の小中学生が「いじめは、どんな理由があってもいけない」と思っています。また、「困っている人を進んで助けている」と思っている小中学生も多くいます。相手の気持ちを考えてつながっていく力を育むため、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちに関わっていくことが大切です。

小学校と中学校が連携した取組により、多くの項目について伸びが見られました。「栗東子育て教育Nextプロジェクト」の成果が表れ始めていると言えます。

「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者につながる力」の3つの力を伸ばす取組を今後も大切にしていきます。

# 栗東市の学ば力向上策

## 言語活動の充実、および文章に触れ、読み解く力の向上につなげる環境づくりの推進

各教科の特質に応じた言語活動の充実を図り、自分の考えをまとめたり、記述したり、表現したりする機会を増やせるよう、指導の充実を図ります。また、子どもたちが互いに今まで学んだことや考えなどを共有し、多様な解き方や表現方法に触れるようにし、より深い理解や柔軟な発想力を育むことにつなげます。

校内で一斉に読書する時間を確保するなど、読書活動を推進します。国語科の教科書の説明文や物語文をはじめ、学習内容に沿った並行読書に取り組むなど、文章を最後まで読むことに慣れる経験を積み重ねます。そのために、学校司書を効果的に活用し、助言や学習に必要な本の準備を活かし「読み解く力」の向上を図ります。また、子どもたちが「本を読むのが楽しい。好き。」と思えるよう、各校の蔵書冊数を増やし、利用したくなる学校図書館づくりを行います。

## 1人1台端末や授業支援システムの効果的な活用

子どもたちが課題の解決に向けて、タブレットなどのICT機器を用いて、自分の考えや意見をわかりやすく伝えたり、まとめたりすることができるよう、効果的な活用を推進していきます。

昨年度導入した「授業支援システム」を活用し、リアルタイムで子どもたち同士が互いの考えを共有したり、教員が個別に支援したりすることで、効果的な指導につなげていきます。

タブレットなどのICT機器を用いて授業を行う割合は、昨年度よりも増加しています。しかし、全国や滋賀県との状況と比較すると低いのが現状です。授業でのICT機器の効果的な活用が広がるよう、研修会を行ったり、好事例を共有したりするなど、今後もサポートしていきます。

小学校では、学年担任制や教科担任制を取り入れることにより、教員が自分の専門分野で力を発揮することができます。各校の実態に合わせた取組を行うことが大切です。

## 「栗東子育て教育Nextプロジェクト」の継続、推進

0歳から15歳までの連続性を大切にした「栗東子育て教育Nextプロジェクト」では、「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」の3つの力を育てています。

各中学校区で子どもたちの課題を明確にして、すべての大人が連携、接続することで、子どもたちが基本的な生活習慣を身につけられるよう働きかけています。

今後も、幼稚園・保育園・幼児園・こども園での体験や学びが、小・中学校に引き継がれ、生かされる保幼小中連携と接続をより一層強化していきます。

## 「各校の主体性・独自性」を重視した取組の支援

昨年度教育委員会が提示した「学力向上セレクト・パッケージ」を継続します。

各校が児童生徒の実態を分析し、学力向上の方略を考え、希望する「学力向上セレクト・パッケージ」メニューに応募します。

各校の主体性・独自性を重視した学力向上策を支援しています。